令和元年度第２回総合教育会議　会議録

日　　時　　令和元年 11 月 15 日（金）午後 2 時 30 分～午後 3 時 57 分
出席委員氏名　　深浦市長、松本教育長、光田教育委員、松永教育委員、
山口教育委員、酒見教育委員
出席を求めた事務局職員
政策経営部企画政策課長（松本）、教育部長（中野）教育副部長（力武）教育副部長兼教育総務課長（梶原）、教育施設課長（吉永）、学校教育課長（中尾）、生涯学習課長（中尾）、体育保健課長（山口）、市民図書館長（杉原）まちづくり課まちづくり推進係（井上）、情報広報課情報推進係（丸田）総合教育推進係長（西尾）、総合教育推進係副主幹（樋口）
議事録署名者　　光田教育委員
傍聴者　　1 名
開　会
事務局(企画政策課長)　　ただいまより、令和元年度第２回総合教育会議を開催します。
初めに深浦市長より挨拶をお願いします。
市　長　　みなさんこんにちは。令和元年度第２回目の総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。市長になって１年７ヶ月ほどなりますが、私の公約の原点は、教育をなんとかしたいということです。教育自体は先生方にお願いするしかないですが、環境整備はぜひやっていきたいと思ってやっております。念願の伊万里中学校の着工も先月でき、私の母校でもあり、ありがたいと思っています。今後、大坪公民館と大坪保育園の複合化などいろいろな問題があります。子どもたちの環境づくりについては積極的にやっていきたいと思っています。ハードソフト両面からの環境の整備が必要だろうと思います。

今年、伊万里市立学校規模適正化協議会が再開されました。小中学校のあり方等について検討していただきたいと思います。教育委員の皆様にも学校の望ましい規模や配置、運営の効率化などについてご意見を伺いたいと思います。

今回の議題にあるＩＣＴの活用について、令和２年度からプログラミング教育が学校教育に導入されるということで、伊万里市ではサイゲームスやタイムカプセルなどの企業におけるプログラミング教室がテスト的に行われています。私は、読むこと、書くこと、考えることができないとプログラミングはできないと、先日も、話し方大会で子どもたちに話しました。プログラミング、イクオール、ゲームという発想もありますが、プログラミングは

ゲームではありません。考える力をもってコンピューターをいかに使うかということがプログラミングです。基本的な教育ができていないと、プログラミングはできないと確信しています。プログラミングを進めるためにも、基本的な教育を、先生方にはぜひお願いしたいと思っています。プログラミングは新しい時代を生き抜いていくために不可欠なものになります。市長部局の方からもこの会議に出席させておりますが、情報部門や企業誘致部門なども併せて、皆様方と進めていきたいと思っています。この会議が教育委員会との連携を深め、有意義な場になりますようよろしくお願いします。

事務局(企画政策課長)　続いて教育長から挨拶をお願いします。

教育長　こんにちは。教育委員の皆様には教育委員会表彰式に引き続き出席していただきありがとうございます。市長さんにもご祝辞を賜りましてありがとうございました。常日頃より市長部局と教育委員会との連携をはかっていただきありがとうございます。今後もさらに一体となって、本市教育行政の推進がはかれるよう願っているところです。

先ほど市長からもありましたが、伊万里中学校の改築工事が始まり、中庭の木々が無くなって新しい光景が見え、工事が始まったという感じがしております。生徒の安全・安心を第一に、工事の進捗を図りたいと考えております。

大坪公民館と大坪保育園の複合施設建設につきましては、先月、実施設計業者が決定し、建設促進委員会を立ち上げて協議を進めているところです。子どもたちの学びと生涯学習の充実に加え、まちづくりの実践の場として、今後のモデルとなるような施設を目指したいと考えております。

本日の議題にもありますが、学校規模適正化協議、令和２年度から小学校で必須となるプログラミング教育についてもご意見を賜ればと思います。

市長さんにおかれましては、教育環境の整備、子育て世代への支援を重要な課題として踏まえていただき、厳しい財政状況の中、充実を図っていただいておりますことに、教育委員会として感謝をいたすところでございます。本日はこの総合教育会議を通して、市と教育委員会がさらに連携を深めるとともに、有意義な協議の場となりますようお願いしまして、あいさつといたします。どうぞよろしくお願いします。

事務局(企画政策課長)　それでは議事録署名者の選任をさせていただきます。光田教育委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

光田教育委員　　はい。

事務局(企画政策課長)　　光田教育委員、お願いします。

それでは議事に入ります。本日は、法に基づき会議は公開としております。しかしながら、法にも規定がございますが、個人情報に触れる部分や会議の公正が害される恐れがあると認めるとき、その他公益上の必要性があると認めるときはこの限りでないとされておりますので、会議の過程においてこのような部分に議論が至る場合には、傍聴の方にご退席いただくことがありますので、あらかじめご了承いただきたいと思います。

ここからは設置要綱第4条第1項の規定により、市長が会議の議長となることとされていますので、以降の進行につきましては市長にお願いしたいと思います。深浦市長お願いいたします。

議長（市長）　　それでは協議に入ります。（1）いじめ、不登校の現状と対応について、教育委員会より説明をお願いします。

学校教育課長　　いじめ、不登校の現状と対応について報告します。まず、いじめ認知の現状ですが、令和元年10月31日現在のいじめ発生件数は、小学校20件、中学校34件、計54件となっております。前年度末と比較して、小学校で1件、中学校で6件、計7件少ない数になっていますが、残り4ヶ月で昨年度を超える数になると予想されます。理由として、いじめについては一昨年度から、冷やかし、からかいなどの事案についても重大な事案に発展する可能性があるとの認識で、いじめとして報告するようになりました。これまで報告してこなかったものも報告し、見逃さないという対応が定着してきたものと考えています。軽微なものもいじめとして認知をして、丁寧に対応していくことが児童生徒の安全・安心を守ることにつながりますので、今後も継続していきたいと思っております。

続いて、事案の態様について説明します。解消日の欄が空欄になっているところは、加害者の謝罪は済んでいますが経過観察中のものです。解消については、事案発生から少なくとも3ヶ月は様子を観察し、いじめ行為が解消している、被害者が心身の苦痛を受けていないことが確認されている場合に解消と判断します。従いまして、継続して観察していくことになっています。

次に、今年度の発生事案を説明します。表の右側のカタカナは、事案の態様です。表の25番、26番、47番をご覧ください。中学生のライン上でのトラブルです。今後このような事案が増えていくことが予想されます。本人や友達からの訴えがあればいいですが、そうでなければ発見することが難しい事案です。情報モラル

教育の充実と共に、不快に感じるライン上のトラブルについては、教員に相談できる信頼関係の構築と学校の体制づくりに努めていく必要がありますし、併せて、市連合ＰＴＡとも協力しながら、家庭における情報モラルの啓発にも努めていく必要があると思っております。

続いていじめ問題対策でございます。いじめ問題の対応につきましては、市の重点課題に位置づけ、伊万里市いじめ防止基本方針に則って学校での普段の児童生徒の観察や、アンケートの実施など様々な取組により、いじめの防止、早期発見、早期解決に向けて努力をしているところです。市いじめ防止対策等緊急スクールカウンセラーの活用状況をあげておりますが、緊急にいじめにかかわる相談が必要となった時に、すぐにスクールカウンセラーを派遣して対応できるよう、市で予算措置をしているものです。10 月末現在では 5 件の事案に対して派遣し、相談を受けているところです。

次に不登校児童生徒数について報告します。不登校とは年間 30 日以上の欠席を基準としています。9 月末現在、小学生 13 名、中学生 36 名、計 49 名となっております。平成 30 年度は小学生 16 名、中学生 57 名、計 73 名でしたので、現在のところ昨年度より 24 名少ない状況です。ただ、数字の多さ少なさに左右されることなく、今後も注意深く児童生徒の様子を観察しながら、不登校傾向の児童生徒などの早期発見、早期対応に努めていく必要があると考えております。不登校対策につきましては、各学校の教育相談コーディネーター等を中心に、組織的に対応し、家庭訪問や教育相談などを通して未然防止や早期対応に努めているところです。

最後に、伊万里市教育支援センター「せいら」の状況をご報告します。昨年度まで、学校適応指導教室「せいら」という名称でしたが、今年度より伊万里市教育支援センター「せいら」となりました。今年度は生涯学習センター2 階の本教室に 18 名、西教室に 2 名が通級し、学校復帰に向けて頑張っているところです。以上、報告します。

議長（市長）　ありがとうございました。皆さんからご意見をお願いします。

Ａ教育委員　いじめについて、カウントの仕方が昨年と変わったということで、10 月末で 54 件という数字で平成 30 年度を追い越しそうです。下半身を見せろと強要されたという悪質な例、ズボンを下げられたとか、たたかれたり蹴られたりしたとか、ラインのグループに恥ずかしい画像を載せられたとか、これらの事案は、学校は違うのですか。

学校教育課長　　8 番、47 番について、学校は違います。47 番の事案の概要は、中学 3 年男子が大勢、ある男子の家に集まって、被害者が全裸でゲームをしていたのを一緒にいた別の中学生が撮影してグループラインにアップしたというものです。

Ａ教育委員　　悪質というよりも、少し考え方を変えないといけないですね。それから､鉛筆の削りかすを給食に入れられたという事案ですが、小学 1 年生ですね。これは、おもしろがってしたのですか。

学校教育課長　　4 回ほど鉛筆の削りかすを入れたということで、加害児童は、悪いことをしたと思って、親に話し、加害児童の親が被害児童宅に謝罪の電話をしておられます。

Ａ教育委員　　入れられた子は、それを食べたのでしょうか。

学校教育課長　　途中で取り除いており、食べていません。

Ａ教育委員　　いたずらでしょうが、いけないですね。相手のご家族様が、いいよとおっしゃったからよかったです。指導を徹底していかなければならないです。

Ｂ教育委員　　加害者が特定できないＳＮＳトラブルはないのですね。

学校教育課長　　加害者は特定されており、各学校で保護者を呼んで指導を行っています。

Ｂ教育委員　　謝罪が済んでいるということですね。

学校教育課長　　はい。

Ｂ教育委員　　わかりました。

Ｃ教育委員　　友人からいろんな相談を受けます。いじめられた子は報復が怖くて言えないということがあると思います。アンケートに書いたほうがいいよと話しますが、アンケートにあがらない事情もあると思います。こうやってあがってきたことは大事だと思います。聴くことがとても大切で、先生方も大変でしょうが、聴くことで本人は心が軽くなると思います。

Ｄ教育委員　　学校訪問で校長先生に聞きますが、スマートフォンを持っている子が多くなって、事案は氷山の一角と思います。ＰＴＡと連携しながら保護者への理解を深めていくことが大切だと思います。携帯電話などの所持率の実態把握をしてはどうかと思います。

議長（市長）　　調査したことはあるのですか。

学校教育課長　　手元にはデーターは持ち合わせておりません。

議長（市長）　　基本的には何らかの形で使っていると思います。

Ｄ教育委員　　持っているという状況で、どのように使わせるかということを考えていかなければならないと思います。

議長（市長）　　ＧＰＳ機能を使って、良い使い方をすれば便利なものです。そう遠くないうちに、持たせることの可否を考えることが必要にな

ってくると思います。先ほどのいじめの件ですが、同じ加害者とか同じ被害者というのはあるのですか。

学校教育課長　　同じ被害者という報告は聞いておりません。同じ加害者はいると思われます。

議長（市長）　　あとで全体的な話をしたいと思います。次に（２）学校規模適正化協議について説明をお願いします。

学校教育課長　　今年度、伊万里市立学校規模適正化協議会を開催し、第１回協議会は 7 月 29 日に行い、諮問事項を確認しました。諮問事項については、国見中学校、滝野中学校を統合するという一つの柱、もう一つは今後の伊万里市立学校の在り方ということで、全市的に見渡した伊万里市内の学校の在り方について検討するというものです。協議会の設置要綱、運営要領について確認し、政策経営部から今後の本市の行財政運営について説明を受けたあと、協議に入りました。意見としては、コミュニケーション能力を身に付けさせるためには一定の学校規模が必要ではないかという意見、一方では通学保障の問題、学校が無くなると地域が廃れていくという心配などがあがりました。また、伊万里市全体を見渡した時に、特別支援学級の増加に伴い教室数が足りなくなる学校も出てきている、宅地の造成に伴い児童数が増加する学校もある。そうなると統合ばかりではなく分離も視野に考えていかなければならないのではないか。あわせて、校舎の老朽化という現実的な問題もあり、全市的な視点で学校の統廃合を考えていかなければならないという意見がありました。

協議会と並行して、滝野校では、滝野校の教育を考える会という会を発足していただき、2 回検討をして頂いています。1 回目の会議では、保護者の立場から、コミュニケーションスキル向上のために一定規模の児童生徒数の中で切磋琢磨させたいという意見、また、小学校は残してほしいという意見、一方ではこのタイミングで小中あわせて統合すべきだという意見もありました。学校がなくなると地域が廃れていくという心配もあるが、学校はあっても過疎化は進んでいるという現実があります。スクールバスの整備など通学保障について、今後の市の予定を知りたいという意見がありました。また、現在、不登校の受け入れを行っているが、そういう意味での滝野校の存在価値はないのかという意見もありました。また、アンケートで意識調査をする必要があるのではないかという意見があり、１回目の会議のあと滝野校でアンケート調査を実施されています。児童生徒と地域の方々のアンケート結果は、存続という意見が統合を上回っていました。保護者につい

ては、統合と存続は同数でした。アンケート結果を基に検討していただいたのですが、児童生徒数が今後増える見込みが無く、ＰＴＡが成立しなくなってくる。学校行事を行なっても小学校だけ残したところで非常にさびしい。通学距離と部活動の送迎に係る保護者の負担についても検討してほしいということでした。滝野の教育を考える会では、最終的には保護者の意見を尊重するべきだろうということになり、統合の方向で、通学保障等の条件整備を今後進めていく必要があるだろうということでした。

これらのことを受けて、2 回目の学校規模適性化協議会を 10 月 21 日に開いたところです。滝野校の教育を考える会の報告を校長が行なったあと、学校の統廃合の在り方について佐賀大学の上野景三教授の講演をいただきました。講演の中で、伊万里市の将来展望はコンパクト化を目指すのか、多重分散を目指すのかということがあり、コンパクト化を目指すのであればスケールメリットも一つの考え方であり、多重分散であれば小中一貫校や義務教育学校という学校の在り方も選択肢になってくるという話をされました。講演の後、グループ協議を行っていただき、コンパクト化や多重分散型の全体的な議論から滝野を議論してはどうかという意見でした。アンケート結果については総合的に議論する必要があるのではないか、アンケートの数字にとらわれることはなく、参考というとらえ方でどうかということでした。教育委員会として通学保障などの具体的方策を示す必要があるということ、そして、絶対に統合反対という意見がないのであれば、滝野校については統合の方向で今後議論を重ねていくということで、2 回目の協議会を終えたところです。次回、市としての将来像や、統合した場合の通学保障等を示してほしいということです。現在まだ協議中であり、答申をいただいたわけではありません。今後、児童生徒数の減少、校舎の老朽化という現実的な問題、通学保障等を考えながら協議を重ね、協議会からの答申を得たいと思います。この答申を基に、教育委員会、市長部局とも、今後の学校の在り方について協議を行っていく必要があると思います。以上、報告を終わります。

議長（市長）　ご意見やご質問はありませんか。

Ｄ教育委員　伊万里市全体としての学校の在り方というところまでは、話は進んでいないのですね。

学校教育課長　はい。そうです。

Ｄ教育委員　わかりました。

Ａ教育委員　アンケートでは、地域の方々と児童生徒は、存続が多かったと

いうことで、子どもたちがこのままがいいと答えたというのが、愛校心もあるかもしれませんが、少し驚きました。保護者さんとしては、広い視野を持たせ、生徒の数もいるコミュニケーションの取れる学校で学ばせたいという希望があったということで、子どもたちの将来を見据えたときに、先に手を打たなければいけないことがあるとお考えになっているのではないかと思います。学校訪問に行って、子どもたちが先生と一対一で授業をしている様子を見ると、高校に行った時、35 人や 40 人の集団の中で、この子の存在はどうなるのだろうと不安に思います。その辺を生徒や保護者さんはどのように考えていらっしゃるのかと思います。私たちは外から見た理想的な意見しか出していない申し訳なさがありますが、先を見据えたとき、協議会の委員の皆さんが出された意見が、いい方向に向かっているのではないかと思いました。保護者さんからは、市の通学保障的なものを出して考えさせてほしいということですので、前向きに進みつつ、しかし、すんなりとはいかない問題を抱えていると思います。今後の協議会で、どのように動いていくのかなと思います。また、中学生と小学生の子どもたちが、何対何だったかわかりませんが、このままがいいと思っている子どもたちにいろんな話をすることも必要だと思います。アンケートの結果だけ示すのではなく、なぜこの学校を残してほしいと思ったのか、ちゃんとした意見を持っている子もいると思うので、そういった部分も大切にして、考えていただきたいと思います。

Ｄ教育委員　　現在、滝野小と東山代小が一緒に授業することはありますか。

学校教育課長　　6 年生が、卒業間際に交流をします。距離がずいぶん離れているので、日常的には難しいです。

Ｄ教育委員　　山代町では、山代東小学校と山代西小学校は規模適正化の協議には入っていませんが、修学旅行を一緒に行くなど交流は進んでいます。統合を考える場合、前段で交流があった方がいいと思います。

Ａ教育委員　　以前、啓成中校区で牧島小学校から、１年生から 6 年生までつながりを持たせて中学校に進みたいということで、伊万里小にお出でになりました。伊万里小は 100 人規模に対し牧島小は 3 人でした。恐怖心を持たせるような交流ではいけないと思います。1 クラスずつ紹介して、月ごとに遊ぶような方法を取るなど工夫が必要だと思います。東山代も児童がたくさんいます。滝野は 6 年生が 3 人、次は１人、その次も１人というような児童数なので、交流も大事ですが、どんな交流が一番いいのか、楽しみに変えて

いけるような交流が大事だと思います。

議長（市長）　ほかにありませんか。

Ｂ教育委員　滝野の教育を考える会の意見の中に、不登校児童生徒の受け入れを行ってきたということがありました。県全体で言えば、高校では太良高校と厳木高校は不登校の生徒を受け入れる形をとっています。今後、不登校は減るのは厳しいと思いますが、義務制でそういう学校を用意するという考えもあるのではないかと思います。滝野校での不登校の受け入れはどれくらいですか。

学校教育課長　これまでの受け入れ実数は把握していませんが、現在は中学生が２人いると思います。

議長（市長）　地域の公共交通の確保は学校に限らず必要になると思います。子どもたちが歩いて通学するのは先進国ではあまりなく、スクールバスや保護者の送迎です。夜も暗くて危ないです。スクールバスという言葉が妥当かどうか別ですが、スクールバスのような公共交通の確保を図る必要があり、それを前提にしていかないと、どうやって通学するのかということになります。道路を整備するのは時間もお金もかかりますが、バスなどでやれば安全安心が担保できます。地域が存続するためには、スクールバスに限らず公共交通の確保が必要です。確保しないと地域は無くなってしまいます。車の免許を返納すると住んでいられません。朝夕は学校の子どもたちを乗せ、昼間は通院や買い物に利用できるバスができないか。道路運送法の問題があって法律が邪魔をしていますが、そういうことができないか考えています。最初は国や公務員がやっていた公共交通も、うまくいかなくなると民間に託され、それもうまくいかなくなると行政がお金を出すことになります。現在もバス会社などに路線維持のためのかなりの経費を払っています。公共交通を確保していかないと周辺人口はどんどん減って、子どもたちが減っていきます。私は各公民館を中心とした小さな拠点づくりが必要だと思っています。コンパクトシティで自治体が指定するエリアに住む人には水道も下水道もある、行政的にはこのエリアに住んでくださいというのはおかしいと思います。住んできたところにできるだけ住めるように、公共交通機関と拠点がないと難しいです。学校の問題を解決するためには交通手段の確保が一番大きな課題となってくると思います。単にスクールバスというのではなく総合的な交通対策がないと、どれもやっていけないと思います。バスになるのかそれ以外になるのかわかりませんが、公共交通を確保することで、学校についての課題も解決につながるのではないかと思います。

次に、3つめのＩＣＴ教育についてお願いします。

事務局（企画政策課長）　（ＩＣＴ教育について　のうち、ＩＣＴ機器、ＩＣＴ支援員について、政策事業計画の観点から説明）

学校教育課長　続いて、プログラミング教育の推進について今年度の実績を報告します。サイゲームスの小学生向けプログラミング体験ワークショップを開催していただき、市内各小学校ですべての６年生を対象に実施しています。565 人の 6 年生が対象です。子どもたちは、自動販売機などを含め生活の中のいろんな場面で、自分たちの命令によって作動するプログラムが多くあることに目が向き、工夫次第で様々な物を動かすことができる可能性を感じて、興味関心も高かったようでした。今後の構想としては、義務教育におけるプログラミング教育の計画的､系統的な実践を１つの柱とし、２つ目の柱として、ＩＴ企業とのコラボによるキャリア形成として、プログラミングを選択できる恵まれた環境整備という官民連携による取組を進め､｢プログラミング教育推進のまち『いまり』｣を目指してまいりたいと思います。そのために庁内関係課の４課でプロジェクトチームを推進し、調整を進めています。内容は、サイゲームスの体験ワークショップを今後も継続していきたいということ、そして義務教育の中でプログラミング教育の計画的、系統的な実践ができるように教職員によるワーキングループを組織して、本市の方針や指導計画、実践事例等をまとめたガイブックを作成したいと思います。また、ワーキンググループによる教師のスキルアップ、授業開発や公開授業、研究会等の実施も考えています。3 つ目に、誘致ＩＴ企業とのコラボによる環境整備ということで、不登校や特別支援教育の必要な児童生徒の学ぶ場、キャリア形成の場の提供ということで、教育支援センター「せいら」でのワークショップの開催、また、不登校、特別支援教育用の授業開発、教材購入も計画しています。また管内高校生を対象とする講演会、PORTO3316 を拠点にした、中高生向けのプログラミングワークショップ、伊万里実業高校における部活動や授業への指導など、このようなことを構想し、調整を進めています。

議長（市長）　皆様方から、ご意見等はありませんか。

Ｃ教育委員　先日、ワークショップを見学させていただきました。子どもたちが上手に操作する姿を見て、さすがだなと思いました。高学年になると集中してやりたいのではないかと思います。環境が準備されることを期待します。

Ｂ教育委員　私も見学しました。子どもたちは楽しそうに生き生きと活動していました。教員主導では難しく、企業の助けを借りて進めてい

ってもらいたいと思います。キャッチフレーズの「プログラミング教育推進のまち『いまり』」をアピールするのもいいと思います。伊万里でこういう教育が行われているから伊万里に住みたいということが起こればと思います。

議長（市長）　パソコンからタブレットに変えていくべきで、パソコンの時代はもう過ぎています。タブレットを気軽に持って、タッチパネルで十分です。パソコンの多機能の分は要りません。使うソフトは限られているので、タブレットに変えて、Ｗｉ－Fi などの通信機能を必ず入れていきたいと思います。防災の観点からも、災害が起こって学校が防災拠点になった時、通信が確保できれば孤立せずに済みます。伊万里市で最初にＣＩＡを山代中学校に導入した時、スタンドアローンという一体型で、先生の方から各子どもたちが見れるようなものでした。その時代はもう終わっているのに、まだそういう意識があります。昔はワードやエクセル、関数などを教えていたのが、今のプログラミングはそうではなく、自分が頭に考えるものを文章にしていく、どう動かすのか、人間ならあうんの呼吸で伝わりますが、機械はそうはいかず 1 歩動くとか 3 歩動くとか、1 から 10 まできちんと伝えないとできません。機器についてもこれからのＩＣＴ教育に合う機器を探していきたいと思います。あまり先進地はないので伊万里市が先進地になればいいと思います。先日、オフィスビルの企業でプログラミングの練習をやっていて、子どもたちがたくさん来ていた中に、武雄から来た子どもたちがいて嬉しく思いました。プログラミングは伊万里でやれるということを、ぜひやっていきたいと思います。先生たちも勉強するつもりで、プロにやってもらってもいいと思います。それから、情報処理を学んでいる高校生に、小学校や中学校のプログラミング教育の講師に参加させて、教える立場になることができないか考えています。オフィスビルに 9 室ありますが、今、そこで仕事ができる人間が少ないのです。伊万里出身や伊万里で学んだ子どもたちがそこに戻ってきて、勤めてくれて、教育にも参加してもらう、できればビルの 1 階に情報関係の専門学校のようなものができて、伊万里で育った子どもたちがそこで勉強して、2 階 3 階のＩＴ関係の企業で仕事をするというような好循環ができたらというのが私の夢です。伊万里で育った子どもたちが伊万里で勉強して、仕事もできるということになれば、あるいは何年か経って伊万里に帰ってこれるということになればと思います。そういった仕事ができれば、伊万里に新しい部門ができるかなと思います。

Ａ教育委員　　ありがたいなと思ってお話しを聞いていました。現場の教員も、プログラミング教育のスタートに備えて勉強していると思いますが、プロの方たちを子どもたちのスタートにあてるということは、とても意味があると思います。子どもたちは外部の先生の指導に喜びを感じます。違う魅力があるのだと思います。その世界で活躍している方がすいすいと授業をしてくださるのを、子どもたちは明らかに違いに気づきます。プロの方々の力を借りて学習することは、未来につながると考えます。よその市長ではできないことかもしれないと思い、とてもありがたいと思います。

議長（市長）　　プログラミングの勉強をすると、子どもたちはコンピューターに対して指示ができます。ゲームだけして論理的に考えていないと、動きません。本を読むことや書くこと、自分の言葉をきちんとコミュニケーション能力として人に伝えることができなければ、プログラミングはできません。数学の文章題の方程式など、論理的な考えができなければプログラミングはできません。やっぱり数学が大事、国語が大事、英語が大事というところに戻ってほしいです。プログラミングだけできるということはありえません。基礎の勉強をちゃんとやる子どもたちが、プログラミングや、いろいろなことが伸びていきます。システムエンジニアやプログラマーにならなくていいのです。論理を使う方になればいい。社会で生き抜く力が出てくると思っています。

Ａ教育委員　　学校の、それに向けての課題といいますか、考える力をしっかり育てていくのが大事ですよと、そういう部分が伸びていくことが見えてきますね。

議長（市長）　　今、やられている家読や、話し方大会などと矛盾しません。プログラミングは学校教育と相反するものでなく、学校教育と矛盾しないということを理解していただきたいと思います。うちの子はゲームばかりするけど、またゲームばかりするんじゃないかというふうに思ってほしくありませんので、そういう教育にできればと思います。

次に、公民館のコミュニティセンター化について、説明をお願いします。

事務局（企画政策課長）　　各地区公民館のコミュニティセンター化について、市の基本的な考え方を申し上げます。少子高齢化や人口減少が進行する中で、各地区で住み慣れた地域で将来にわたって暮らせるまちを目指して、将来的な計画づくりに取り組んでもらっています。今後、このような各地区のまちづくり活動を促進していきますと、例えば、活動を継続していくために必要な財源を確保することが必要にな

り、商品の販売や葬祭事業など、公民館のままでは社会教育法の制約を受けて取り組むことができないような活動に発展していくことが見込まれます。そういう制約を解消して、これまで以上に、自由にまちづくり活動に取り組んでいただこうという趣旨です。コミュニティセンター化をきかっけに、各地域で地域づくりへの議論が高まり、民間企業の参画やコミュニティビジネスの取り組みなど、新たな事業の展開につなげてもらいたいと考えています。地区公民館の所管はこれまで教育委員会でしたが、コミュニティセンター化に伴い、市長部局のまちづくり課へ変える予定です。職員体制はこれまでの公民館の職員体制に加えて、集落支援員の配置を検討していきたいと考えています。総務省の制度を活用して、まちづくり運営協議会の運営支援ということで、まち全体の見回りや点検を通して問題や課題を見つけ、住民の皆さんと話し合いながら取組を企画立案してもらう業務を想定しています。人材としては地元の人が望ましいと考えています。早ければ来年度から、モデル的に一部の地区に導入することを考えていますが、新たに人件費も発生し、見合う人材を確保できるかという問題もありますので、各地区と話しを詰めていきたいと考えています。

議長（市長）　集落支援員制度を、学校の送り迎えや通院などに使えないかと考えていますが、道路運送法で制約があるので、その規制を越えてやれるのかどうかということがあります。何も規制がなければすぐにでもできればと思っています。自治体運営は地域の知恵比べの時代です。以前は国や県の事業を下請けして市がやっていましたが、地域のやり方に対して市が支援する形でいければと思っています。人口が周辺部は減って、黙っていたら 10 年後 20 年後はさらに減ります。地域の中でやっていただきたいというのが私の気持ちです。必要な人とかモノとか予算については、なんとかしたいと思っています。いつも、市長、どうするのですかと言われますが、みなさんどうされるのですか、何をしたいのですかと思っています。いいことは支援をしようと思っています。

Ａ教育委員　住民の方々の、光が差したような場所になればいいなと思います。コミュニティセンターは、今の公民館の職員さんが名前だけ変わるということですか。

議長（市長）　まずはそうです。

Ａ教育委員　名前だけ変わってもいけないですね。意識の改革が大事です。コミュニティセンターになったから、うちの町ではどういうふうにしようと積極的に考えていくことが必要ですね。メンバーが前のままだと前のままでいいとならないように思います。

議長（市長）　平成から令和と年号が変わったが、何も変わってはいない。しかし、ちょっと違うことがあるんじゃないかとかいう期待感とか、何かやってみようとか、私はそういうことを期待しています。松浦町で８月の豪雨の時に炊き出しをやっておられました。災害の時だけでなく、１か月に１回くらい地域の人が集まって食事会などしてはどうですかと。安否確認もできるし、迎えに来てほしいという人にはいくらか車代を払っていいから来てもらって、夏の暑い時にはクーラー施設を作って集まって安否確認をしながら一緒に食べたり、子どもたちも呼べばふれあいもできます。そのために冷蔵庫が必要ならば買うとかいうことから始めたらいいと思います。人が集まれば、ぶっくんを巡回させて本を借りることもできます。移動スーパーが来てくれてもいいです。人が集まる仕組みを考えてほしいと言っています。来ていらっしゃらなければ具合がよくないのかなということにもつながります。

それと、学校長の裁量予算で啓成中学校は全学年と牧島小学校、伊万里小学校の5、6年生が集まってテカピカ運動をされていました。子どもたちは、感謝されて嬉しかったとか、まちがきれいになって良かったとか言っていて、そういうふうに使ってもらって、先生方にお任せしたことが良かったと思いました。良い方に考えてもらって、公民館にも何かやるところに支援をしていきたいと思っています。目指すところをある程度持って、いくつかでもやるところには支援員を配置しながらやってみる、いいことであれば真似をしてもらうということでいいと思います。

Ｃ教育委員　お互い刺激になって地域の活動が盛んになればいいと思います。

議長（市長）　地域で何とかしないといけないと思ってやっている人たちに、行政的に支える形で行きたいと思います。令和という、言葉が変わったことをきっかっけに、伊万里市のそれぞれのまちづくりをやってもらえるような仕組みにしたいと思います。

Ｃ教育委員　子どもが幼稚園の頃、友達のご家庭に集まって、お菓子などを作って交流していました。そういうことの延長でコミュニティセンターに集まって、何か作って販売もできたら楽しいと思います。

議長（市長）　土日に開けても良く、自由に地域の判断でやれる仕組みができればと思います。図書館からぶっくんを回してもらうなど、やれたらいいなと思います。思ってやっていかないと、衰退するのは目に見えています。皆さんの意見の中で、できるものについては１つずつやっていきたい。協力とかお願いでなく、一緒にやっていくという覚悟で、教育を通して伊万里市を発展させていきたいと思います。これで総合教育会議を終わります。　（午後３時57分　終了）